科目名	病理学3(概論)						年度	2025	
英語科目名	Pathology 3 (An outline)							学期	後期
学科・学年	柔道整復科 2年次	必/選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	岡本純佳	教員の実務経験		有	実務経験の職種 医師		(病院勤務医)		

【科目の目的】

病理学を習得して柔道整復師が現場での適切な施術を行う基盤をつくることを目的とする。

【科目の概要】

炎症や腫瘍等の基礎知識を学びます。

【到達目標】

病理学を学ぶことで日々進歩している医学・医療に対応できるように疾病の原因、経過、本態、他の疾病との鑑別、治療効果などについて理解することが必要である。医療現場における施術の土台を形成することを目標にしている。

【授業の注意点】

国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度(私語・飲食・居眠り)には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

	評価基準=ルーブリック						
ルーブリック	レベル 5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル 1		
評価	優れている	よい	ふつう	あと少し	要努力		
到達目標 A		炎症の原因と形態学的 変化について大体理解 している。		炎症の原因と形態学的 変化についての理解が やや不足している。	炎症の原因と形態学的 変化について理解して いない。		
到達目標 B		炎症の分類について大 体理解している。	炎症の分類について部 分的に理解している。	炎症の分類についての 理解がやや不足してい る。	炎症の分類について理 解していない。		
到達目標 C		免疫異常について大体 理解している。	免疫異常について部分 的に理解している。	免疫異常についての理 解がやや不足してい る。	免疫異常について理解 していない。		
到達目標 D		アレルギーについて大 体理解している。	アレルギーについて部 分的に理解している。	アレルギーについての 理解がやや不足してい る。	アレルギーについて理 解していない。		
到達目標 E	腫瘍について完全に理 解している。	腫瘍について大体理解 している。	腫瘍について部分的に 理解している。	腫瘍についての理解が やや不足している。	腫瘍について理解して いない。		

【教科書】

教科書 (病理学-社団法人全国柔道整復学校協会監修-) に準拠する。

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

試験と課題を総合的に評価する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名 英語表記		病理学3	年度	20	025		
		Pathology 3 (An outline)			後	頻	
回数	授業テーマ	各授業の目的 授業内容 到達目標=修得す		到達目標=修得するスキル		評価方法	自己評価
1	炎症 ①	炎症の一般について理 解する。	 1 炎症の概説 2 炎症とは 3 五大徴候 	風邪・下痢・肺炎・口内炎・胃炎・虫垂炎などについて理解する。 臓器などに障害をもたらした刺激や侵襲に対する生体反応と障害組織の修復過程について理解する。 発赤・発熱・腫脹・疼痛・機能障害について理解する。			
2	炎症②	炎症の原因について理 解する。	1 感染症 2 物理的傷害 3 化学的傷害	細菌とウイルスによる感染症が多いことを理解する。 外傷・温熱や寒冷・放射線・電気刺激などについて理解する。 強酸・強アルカリ・腐食毒などの化学的物質について理解する。			
3	炎症③	炎症の形態学的変化に ついて理解する。	1 組織の傷害 2 循環障害および滲出 3 組織増生	実質炎について理解する。 発赤・浮腫・浸潤・化膿について理解する。 肉芽組織形成・線維化・瘢痕について理解する。			
4	炎症④	炎症の分類について理 - 解する。	1 滲出性炎 2 増殖性炎 3 特異性炎	代表例として化膿性炎による蜂巣(織)炎について理解する。 代表例として間質性肺炎と肝硬変について理解する。 代表例として結核や梅毒について理解する。			
5	免疫異常、アレル ギー①	免疫の仕組みと免疫不 全について理解する。	1 免疫の仕組み 2 先天性免疫不全 3 後天性免疫不全	免疫反応が自然免疫と獲得免疫に大別されることについて理解する。 患者が生後より感染を繰り返すことを理解する。 後天的な原因により免疫機能が障害されることを理解する。			
6	免疫異常、アレル ギー②	自己免疫疾患について 理解する。	 1 全身性エリテマトーデス 2 関節リウマチ 3 橋本病 	最も代表的な全身性の自己免疫疾患であることを理解する。 全身の関節をおかす慢性関節炎を特徴とする自己免疫疾患であることを理解する。 甲状腺の自己免疫疾患であることを理解する。			
7	免疫異常、アレル ギー③	アレルギーについて理 解する。	1 アレルギーとは 2 アナフィラキシー型 3 細胞傷害型	免疫反応が生体に有害に、また組織傷害性に作用することを理解する。 局所反応として気管支喘息・花粉症・蕁麻疹について理解する。 代表例として不適合輸血による溶血性貧血について理解する。			
8	振り返り	後期1回~7回の講義の 振り返り。	1 炎症 2 炎症の分類 3 アレルギーの5型	五大徴候について理解する。 滲出性炎・増殖性炎・特異性炎について理解する。 I型~V型について理解する。			
9	免疫異常、アレル ギー④	アレルギーの5型につ いて理解する。	1 免疫複合型 2 遅延型 3 刺激型反応	代表例として血清病とIgA腎症について理解する。 代表例としてツベルクリン反応について理解する。 V型アレルギーを代表するバセドウ病について理解する。		3	
10	腫瘍①	概念・定義・肉眼的形態について理解する。	1 腫瘍の定義 2 腫瘍の外形と色調 3 腫瘍の硬さと二次変化				
11	腫瘍②	腫瘍の細胞・発育諸段 階・生体への影響につ いて理解する。	1 腫瘍細胞 2 腫瘍の発生の機構 3 腫瘍の増殖と進展	腫瘍細胞の形態・細胞骨格・腫瘍マーカーについて理 イニシエーション・プロモーション・プログレッショ て理解する。 TNM分類について理解する。	/ョン・プロモーション・プログレッションについ 		
12	腫瘍③	発癌の原因・癌の診断 - と治療について理解する。	1 癌の外因 2 癌の内因 3 癌の治療	放射線・化学物質・ウイルスについて理解する 遺伝要因・性・年齢・ホルモン・免疫・栄養について る。 手術療法・放射線療法・薬物療法について理解する。	因・性・年齢・ホルモン・免疫・栄養について理解す		
13	腫瘍④	分類・悪性腫瘍・主要- な癌について理解す る。	1 腫瘍の分類 2 悪性腫瘍の分類 3 主要な癌	良性腫瘍・悪性腫瘍について理解する。 上皮性・非上皮性について理解する。 肺癌・大腸癌・胃癌・肝癌・子宮癌・乳癌について理解する。			
14	振り返り	後期9回〜13回の講義 の振り返り。	1 アレルギーとは 2 腫瘍の定義 3 腫瘍の分類	免疫反応が生体に有害に、また組織傷害性に作用することを理解する。 コントロールされていない自律性の増殖について理解する。 良性腫瘍・悪性腫瘍について理解する。			
15	病理学3(概論) のまとめ	1 次症 五大徴候について理解する。 ※期病理学3 (概論) 全体の振り返り。 2 アレルギーの5型 I型~V型について理解する。 3 悪性腫瘍の分類 上皮性・非上皮性について理解する。				3	

自己評価:S:とてもよくできた、A:よくできた、B:できた、C:少しできなかった、D:まったくできなかった